

平成28年8月教育委員会定例会 会議録

平成28年(2016)8月23日(火)午後3時、出雲市教育委員会定例会を市民応接室に招集した。

1. 会議に出席した委員

| | |
|---------------|---------|
| 教 育 委 員 長 | 本 田 惠 子 |
| 教育委員(委員長職務代理) | 松 浦 剛 司 |
| 教 育 委 員 | 下 手 泰 子 |
| 教 育 委 員 | 小豆澤 貴洋 |
| 教 育 長 | 楨 野 信 幸 |

2. 説明のため会議に出席した者

| | |
|---------------|---------|
| 教 育 部 長 | 杉 谷 学 |
| 教育部次長(教育政策課長) | 小 山 裕 美 |
| 教育部次長(学校教育課長) | 安 井 孝 治 |
| 児童生徒支援課長 | 竹 田 博 司 |
| 教育施設課長 | 金 山 隆 司 |
| 学校給食課長 | 木 代 伸 治 |
| 出雲科学館館長 | 山 本 利 明 |
| 保育幼稚園課長 | 坂 本 伸 仁 |
| 学校教育課主査 | 佐 藤 協 |
| 児童生徒支援課課長補佐 | 松 井 博 之 |
| 保育幼稚園課課長補佐 | 鬼 村 修 治 |

3. 会議の書記

| | |
|---------------|-------|
| 教 育 政 策 課 主 査 | 和 田 貢 |
|---------------|-------|

4. 傍聴者

1人

開会

(本田委員長) 只今から、平成28年8月出雲市教育委員会定例会を開会します。本日の会議はお手元に配付しております日程のとおり行います。

1. 会議録の承認

(本田委員長) それでは会議録の承認に入ります。7月定例会の会議録について、何か意見がありましたでしょうか。

(各教育委員) ありません。

(本田委員長) 特に意見等ありませんので、7月定例会の会議録については承認といたします。

2. 教育長行政報告

(本田委員長) 次に、行政報告について、槇野教育長に報告願います。

(槇野教育長) (以下、報告項目のみ掲載)

(1) 前回以降の動向

- H28.7.27 県私立幼稚園教育研修会
- H28.7.27 校長会との懇談会
- H28.7.28 全国難聴言語障害教育研究大会
- H28.7.29 市議会全員協議会
- H28.7.30 全国高等学校総体柔道競技大会(浜山体育館) ~8.3
- H28.8.2 地域別校長会(河南)
- H28.8.3 地域別校長会(大社・斐川、平田)
- H28.8.3 田儀小・岐久小再編統合推進委員会
- H28.8.4 地域別校長会(出雲1、2)
- H28.8.5 地域別校長会(向陽)
- H28.8.7 戦没者追悼・平和祈念式典
- H28.8.8 中国中学校陸上競技選手権大会(浜山公園)
- H28.8.9 主幹教諭研修会
- H28.8.10 保幼小連携合同研修会
- H28.8.19 小中連携推進委員会
- H28.8.20 同和教育講演会
- H28.8.23 定例教育委員の会議

(2) 今後の予定

- H28.8.24 校長の会議
- H28.8.24 県市町村教育委員会連合会要望活動
- H28.8.30 市議会初日 ～9.27
- H28.8.31 総合教育会議
- H28.9.1 市防災訓練
- H28.9.2 市議会一般質問 ～9.7
- H28.9.9 市議会文教厚生常任委員会
- H28.9.15 市議会予算特別委員会
- H28.9.16 市議会決算特別委員会 ～9.23
- H28.9.27 市議会最終日
- H28.9.27 定例教育委員の会議

(本田委員長) 只今の教育長の行政報告について、質問等がありますか。

(本田委員長) それでは、先ほどお話の中で、地域別校長会のテーマにありました、小学校高学年における5段階評定の実施について、皆様のご意見をお願いします。

(小豆澤委員) 自分たちが受けていた評価というものが、当たり前のように認識してここまで来ていて、今度子どもの評価がどうなっているのかを知る上で、できれば同じであった方が、子どもにアドバイスとか、そういったこともしてやりやすいので、親としては5段階評価になった方がわかりやすいのではないかと思います。それから絶対評価と相対評価について言うと、将来、相対的に評価されることが多いであろうから、あえてそれを絶対評価としていくのは、この世界にだけしか成り立たないという気がして、あまりにもちょっと、そのもともとの根幹の考え方がどういうステップアップで来ているのかを知らない中でいくと、ちょっと私は理解しがたいという気がします。

(下手委員) 私自身は、最初は単純に賛成というか、中一ギャップというのはいちの子どもたちの時にも言われていましたのであったと思いますし、それはいいと思いますけれど、お話を伺いながら気になったのは、基準が絶対評価であるがゆえに、先生によって違ったり、いろいろ曖昧なところがあることがわかりまして、数字の評価にしたときに、だいたいの統一した考え方みたいなものがあつた上での評価ならいいと思ったことと、先生方が懸念されていた、1と2しか付かなかつたときの子どもたちのショックとか、そういうことが小学校であることがどうなのかと、若干お話を聴きながら迷いが生まれましたが、結局それを中学校に持ち越したからショックがないかということはどういうことはないのか、みんなで考えてそのようにしていくことは、決して悪いことではないと考えました。

(松浦委員) 結論から言うと、賛成です。やはりわかりやすいと思います。平田の場合は3段階で、それだけでもわかりやすいと思ったのですが、ただ「◎」、「○」、「△」を数字にただけなので、5段階だともう少し細かくわかるのかなと思いました。今回の会に出て思ったのが、仮にこれが採用されなかった場合、1年に1度でいいので「◎」、「○」、「△」の状態を、親にもう少し詳しく説明するべきだと強く思いました。ちょっとわかりにくい部分があるので、本当の姿というのを、親にちゃんと説明するべきではないかと思いました。それから絶対評価のことも、せめて中学校では相対評価にするべきだと思います。小学校の間であれば絶対評価でいいのかなという思いもありますが、中学校の5段階はやはり相対評価にして、高校の受験に向けて備えるべきではないかと思います。理由は同じです。世の中、競争に満ちていますので、そこはやはり生き抜く力をしっかりと備えるべきだと思います。

(本田委員長) 私の意見も、5段階評価に賛成です。さらに言うと、「3」も、昔あったと思いますが、「上」、「中」、「下」のように分かれて、さらに細かくしてもいいぐらいだと思っています。なかなか5段階評価で、ひとつ成績が「2」から「3」、「3」から「4」、「4」から「5」へ動くのはすごく難しいことだと思いますので、もう少し「3」なども細かく分けていいぐらいではないかと思います。「○」などは親が見ても子どもが見ても、いったいどういう状態なのかわからなくて、絶対評価と言われる「絶対」ということも、未だによくわかりません。先生によっても違うだろうし、地域によっても違うだろうし、学校によって、県によって、その「絶対」の基準さえも、本当に「絶対」ではないのではないかと思われまます。そういったところで、競争する、がんばろうという気持ち、そして親も、がんばらせないといけないという実情が早くわかったほうが、いいのではないかと思います。

(榎野教育長) ありがとうございます。このご意見を踏まえて、校長会でいろいろと話をしていきます。どのようになるかはわかりませんが、今のままで本当にいいのかと言うと、ちょっとどうかなと思います。せめて小学校の高学年からは、そういう評価があった方が、中学校の接続が、子どもも保護者もうまくいくのではないかと思いますし、結局相対評価の中で生きていくことになるわけですから、今の絶対評価がいいのかということも、ただ私たちだけで議論しても変えられませんが、問題提起はできますので、また機会を捉えていろいろなところで発信していきたいと思っています。

(本田委員長) 教育長の行政報告について、以上とします。

3. 協議

(本田委員長) それでは、「学力調査結果の学校別結果の公表について」協議にはいります。最初に教育部 安井次長 に説明願います。

(安井次長) 資料に基づき説明。

(本田委員長) 確認ですが、自分の学校のクラスでは、数字は皆さんにお伝えするということですね。

(安井次長) そうです。

(本田委員長) 点数は公表しないけれども、自分のところのクラスや学校の中では数字は伝えるということですね。

(安井次長) 保護者向けには、こういう状況ですという数字が入ったもので、お知らせをしています。

(本田委員長) それを今年、そしてこれからどうするかということについて、委員の皆さん、いかがでしょうか。

(松浦委員) 去年は松江を事例に出して、比較で見ました。わかりやすかったです。

(杉谷部長) グラフなどが入っていました。

(下手委員) 私は、今年もこのやり方でいいと思います。あれほど話し合ったので、続けてみるのは大事だと思います。ただ、このまま、しばらくこれでいくことにしておく、それは余計に誰も読まないし、ただ書いたものがあるというようなことになると思ったり、あれだけ騒いでいてもあの無関心さですから、さらに無関心になるような気がします。やはり毎年この中で、どうするか話し合いをした方がいいと思います。

(小豆澤委員) 27年度の出雲市が発表した資料を見ましたが、これの活用をするのが誰なのかと考えたときに、学校の方の対策であれば学校の先生方が、今後組立てを見通しやすい評価方法や総括の仕方が一番いいのではないかと思います。去年のを見ても結構具体的で、これに関心があるのか無関心なのかは、その人次第ではないかと思えます。内容は各学校で教科ごとに、きちんと課題から成果まで記載されていますので、要はこれが学校にとって、次につなげやすいものかどうかという視点で、改良されるなら改良されるべきだという感想を持ちました。

(榎野教育長) やはり一番の効果というかねらいというか、今、おっしゃったように、この同じ書式で全部の学校が課題や改善策を記載する、これを作る過程というのは、すごい分析をして、どういう改善策をしようかという校内の話し合いが有ってこれができるわけです。ですからその過程が大事だということと、出来上がったものが学校間の比較がしやすい、要するにいいとか悪いとかではなくて、こういう取組をしているとかい

うことがわかるわけです。ですから一番大きい成果というのは、それぞれの学校できちんとした分析がされて改善策が立てられる、それを市内各学校で、共通で比較したり、いいところを取り入れることができるということにあると思いますし、学校で立てた改善策をきちんと実践していくということが、とても大事なことだと思っています。ですから当然、地域や保護者には数値的な部分も入れたもので説明したりしますので、全体に数字を出してどうなのかということは、先ほども意見がありましたように、これまでいろいろ議論して今の方式になっていますし、まだ年数もそんなに経っていない中で、無理にここに数値を入れて公表する必要はないという気はしています。校長会あたりと話しても、やはり数字を出すことには抵抗感が強いですし、実際にそれぞれの学校がいろいろな工夫をしてがんばっているのは事実ですので、それをただ単に、数値はこうでしたということで公表して意味があるかどうかというと、今の方式でいいのかなという気がしています。

(松浦委員) やはり、いろいろな課題が出てくると思うので、一年一年協議していくべきだと思いますね。

(小豆澤委員) 例えば一中、二中、三中があつて、三中が一番だったので三中へ行けるかということもそういうものでもないですね。となると、この公表するものに対するこの数字というのは、あまり価値が見えなくて、どこに行こうが学校は等しく教育を受けられるものなので、確かに比較はできるけれど、数字上で評価されるものではないという気はしながら、「成果と課題」というものを見ていました。そういう中で、1年ごとにいろいろ情勢が変わることもあろうと思いますが、基本的にはこれを活用するのが学校の先生たちということであれば、その先生たちの共通認識のしやすいもののほうがいいと思います。正答率の話だけしていくのかというと、そうでもない気がしています。

(本田委員長) 私も、同じように思います。この全国及び市の学力調査というものが、何のためにしなければならないかということ、子どもたちのこれからの学習のためと、先生たちの指導のためにあるのであって、そのためには今のこのやり方で十分ではないかと思います。これに加えて点数を公表するまでは、しなくてもいいのではないかと思います。皆さんの意見を総合しますと、今年はこのままで、来年度以降はまた毎年話し合うということをお願いします。

4. 議事

(本田委員長) それでは、議事にはいります。「議第20号 出雲市教育委員会感謝状贈呈者の決定について」を、教育部 小山次長 に説明願います。

(小山次長) 資料に基づき説明。

(本田委員長) 只今の、議第20号について、何か質疑等はありませんか。

(松浦委員) たまたま私は、幼稚園運営協議会の会長をしておりますが、薄暗いところにウサギ小屋があつて、園児があまり行かないという事情もあつたようです。このように申し出てやっていただいたのは、先ほど説明されたように、去年から平田幼稚園も、人権同和教育の指定を受けて非常にがんばっておられる中で、動物を大事にしたらいねという話があつて、こういう環境をいただいて、非常に良かったと思います。よろしくお願いします。

(本田委員長) 多大なご尽力をいただいているようです。ただいまの議第20号について、承認してよろしいですか。

(各教育委員) 異議なし。

(本田委員長) ご異議ありませんので、議第20号については承認します。

5. 報告

(本田委員長) それでは、報告事項に入ります。報告(1)「9月定例市議会への提出案件について」の①単行議決案件、②専決処分の報告を、教育施設課 金山課長 に説明願います。

(金山課長) 資料に基づき説明。

(本田委員長) 只今の、報告(1)について、何か質問等はありませんか。

(各教育委員) なし。

(本田委員長) 次に、報告(2)「平成27年度(2015)教育委員会の事務の管理執行状況の点検・評価報告書について」を、教育部 小山次長 に説明願います。

(小山次長) 資料に基づき説明。

(本田委員長) 只今の、報告(2)について、何か質問等はありませんか。

(本田委員長) 下手委員さんは、これにお出かけいただきお疲れ様でした。

(下手委員) いろいろな意見が出ているなどと思って、興味深く読みました。この意見の多様性を見たときに、いろいろな立場から見ていただくことの大切さを感じました。

(本田委員長) ほかにありませんでしょうか。

(本田委員長) 次に、報告(3)「教育委員会の人事異動について」を、教育部 小山次長 に説明願います。

(小山次長) 資料に基づき説明。

(本田委員長) 只今の、報告(3)について、何か質問等はありませんか。

(各教育委員) なし。

(本田委員長) 次に、報告(4)「平成28年度全国中学校総合体育大会等の結果について」を、教育部 安井次長 に説明願います。

(安井次長) 資料に基づき説明。

(本田委員長) 只今の、報告(4)について、何か質問等はありませんか。

(下手委員) 「ラジオ番組部門」というのは、初めて見たと思いますが、浜山中の作品は、何を書かれた作品で賞を受けられたのですか。

(安井次長) すみませんが、承知しておりません。

(小豆澤委員) 直接関係ないかもしれませんが、学校によって、部活があつたりなかつたりしますね。私の甥が高松小で柔道をやっていて、「中学校は一中へ行かなきゃ」と言うので、理由を聞いたら浜山中にはないということです。そういうことが良くわからなくて、今、柔道の出場校に一中が書いてあつて思い出しました。相撲部というもの、完全に1年間を通した部活は、どこかありますか。やはり、募つての出場ですか。

(槇野教育長) そうですね。

(本田委員長) ほかに質問はありませんか。

(各教育委員) なし。

6. その他

(本田委員長) 次に、「その他」に入ります。教育委員会の後援・共催事業について、教育部 小山次長 に説明をお願いします。

(小山次長) 資料に基づき説明。

(本田委員長) 只今の報告について、質問等はありませんか。

(各教育委員) なし。

(本田委員長) その他、委員の皆さま、あるいは事務局の方で、何かございますか。

7. 次期教育委員会の開催時期

(本田委員長) 次期教育委員会の日程ですが、9月27日(火)の、午後2時から、市民応接室で開催いたします。それでは、以上をもちまして、教育委員会8月定例会を閉会します。

(14:53) 定例教育委員会閉会